

10月2日(土)・大会2日目 9:30~10:50 (A会場:1001) (80分)

●セッション【9】

「ジョブ・クラフティング:概念の普及と実践への応用」

* 高尾義明(東京都立大学大学院経営学研究科教授)

櫻谷あすか氏(東京大学 大学院医学系研究科社会連携講座

「デジタルメンタルヘルス講座」特任講師))

砂口文兵(相山女学園大学現代マネジメント学部准教授)

貴島耕平(関西学院大学商学部助教)

*セッション・リーダー

[概要]

2001年の概念の提唱から約20年を経て、ジョブ・クラフティングは日本の実践の場でもしばしば参考されるようになってきました。また、経営学(組織行動論)のみならず、産業保健の分野でもジョブ・クラフティング概念は用いられており、学際的展開がなされています。そこで、本セッションでは、概念の実践的展開がまさにされつつあるジョブ・クラフティングについて、研究としての展開と実践への応用を同時かつ学際的に取り上げ、今後の研究に資するインプリケーションの提示を試みます。冒頭で、セッションの趣旨及び概念定義等をセッション・リーダー兼司会の高尾から簡単に紹介します、次に、櫻谷氏より「産業保健におけるジョブ・クラフティング」というタイトルでの報告、砂口・貴島氏より「組織におけるジョブ・クラフティングの様相」というタイトルでの報告を続けて行います。最後に、「ジョブ・クラフティング研究と実践の架橋に向けて」という短い報告が高尾からなされた後、フロアの参加者も含めてそれぞれの報告についての質疑とディスカッションを行います。

[参加者へのメッセージ]

アカデミックな概念と現場発の概念の相互的な浸透や学際的展開は、経営学(組織行動論)の特徴ですが、ジョブ・クラフティングのように、実践を捉えるレンズとして生み出されたアカデミックな概念が、そのまま実践の場で用いられるようになることは、近年の組織行動論において必ずしも一般的とはいえません。その意味で、リサーチ・プラクティス・ギャップが問題となる中、ジョブ・クラフティング概念の普及や実践への応用は注目に値するように思われます。ジョブ・クラフティングの研究や実践に興味がある方だけでなく、経営学(組織行動論)における研究と実践の関係に关心がある方にも是非ご参加いただければと思います。